127

エプワース眠気尺度が睡眠時無呼吸症候群の指標に及ぼす影響について

◎高比良 直也[1)]、松村 佳永子[1)]、小谷 敦志[1)]、久保 修一[1)]
近畿大学医学部奈良病院 臨床検査部[1)]

【背景】エプワース眠気尺度（以下:ESS）は日中における睡眠障害の指標であり、睡眠時無呼吸症候群（以下:SAS）の問診的スクリーニングとして使われる事が多い。ESS が正常値を示す重度の SAS は日常検査ではしばしば見られ、ESS との関係性は明らかとされていない。
【目的】ESS 高値群と ESS 正常群における SAS の指標について比較検討する。
【対象】2015 年 11 月～2018 年 5 月までにおいて、当院で簡易終夜睡眠ポリグラフィー検査を行い、記録条件が良好かつ SAS と診断された 220 名。
【方法】対象を ESS が 11 以上（以下:ESS 高値群）と ESS が 10 以下（以下:ESS 正常群）に分類し、無呼吸低呼吸指数（以下:AHI）、酸素飽和度低下指数（以下:ODI）、記録中の平均 Spo2（以下:平均 Spo2）、記録中の最小 Spo2（以下:最小 Spo2）、年齢及び BMI の平均値を算出し比較した。また、対象を 40～59 歳の集団と 60 歳以上の集団に分け、各集団を ESS 高値群と ESS 正常値群に分類し、両群で平均値に差があった項目に対して、有意差検定を行った。
【結果】ESS 高値群と ESS 正常群において、各項目の平均値は AHI で 29.5±22.2、26.0±15.7、ODI で 20.9±22.1、14.6±13.1、年齢で 56.0±14.6 歳、61.8±12.2 歳、平均 Spo2 で 93.8±2.8%、93.9±1.9%、最小 Spo2 で 79.0±10.6%、80.7±9.2%、BMI で 25.6±4.7、25.4±4.7 であった。ESS 高値群における 40～59 歳と 60 歳以上の AHI 及び ODI では差を認めず、ESS 正常群における 40～59 歳と 60 歳以上の AHI 及び ODI で差を認めた。
【考察】ESS 正常群より ESS 高値群で AHI 及び ODI が高値を示したことから、ESS が高値の SAS は、ESS が正常の SAS より重症化しやすいと考えられる。また、ESS 高値群では AHI 及び ODI で年齢差を認めないことから、ESS は、問診的スクリーニングとして有用であると考えられた。
【結語】ESS が高値の SAS は、ESS が正常値の SAS より AHI、ODI などの指標が重症化傾向であると考える。

近畿大学医学部奈良病院　Tel:0743-77-0880